

# 景況レポート

(4月分・情報連絡員 80名)

## DI値は4カ月連続で上昇

【概況】4月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが14.1%（前月調査5.1%）、「悪化」が43.6%（同50.0%）で、業界全体のDI値は-29.5となり、前月調査と比較し15.4ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-36.7で前月調査（-48.3）に比べ11.6ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-25.0で前月調査（-42.5）に比べ17.5ポイント上回った。

DI値は4カ月連続で上昇しており、2年1カ月ぶりにマイナス30台を上回った。特に、自動車販売は10カ月連続して前年同月の売上を上回って、家電販売とともに多少回復感が見られるが、それ以外の業界では、受注の確保や燃料、原材料の高騰に苦慮しており、回復感は依然見られない。

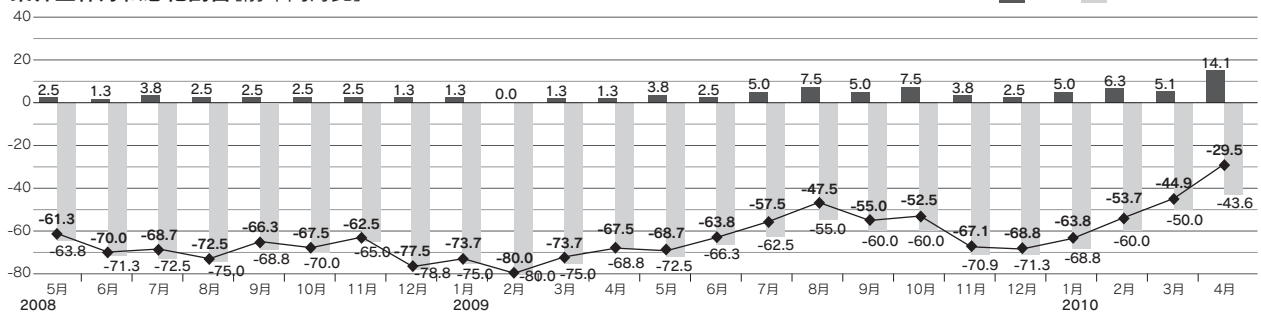
(回答数：78名 回答率：97.5%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️
非製造業	☁️	☁️	☁️	☁️	☀️	☁️

【凡例】  
 ☀️ 快晴 30以上  
 ☀️ 晴れ 10以上 30未満  
 ☁️ 曇り 10以上 30未満  
 ☔️ 雨 10未満  
 ⚡️ 雷雨 △30超 △10未満  
 △30以下  
 【天気図の見方】  
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



### 業界の声

製麺	消費低迷により依然として厳しい状況にある。冬物商品と夏物商品の切替を行ったが、気温が上昇せず、売上は伸び悩んでいる。
清酒製造	3月分の清酒出荷量は、2,008 kℓで、前年同月比 102.7% で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で 101.3%、純米酒が 108.4%、本醸造酒が 103.6%、レギュラー酒が 102.1% という状況になっている。
精穀・製粉業	天候不順からか、前半の売上が特に悪かった。低温により、小豆等雑穀類が高値で取引されている。例年、4月に入ると原料は下降局面に入るが、今年は一段と強含みで推移している。
繊維・同製品	春物の最終期で忙しくても、製品単価が低下しており厳しい経営が続いている。
木材・木製品	原木は品薄気味であり、単価、数量とも前年同月を上回っているが、製材品は依然として動きが鈍い。住宅着工の動きも鈍く、特に個人住宅が冷え込んでおり、住宅展示会も不振である。
舗装材料	補正予算で工事があつたため、合材出荷量が、2,000t 台に達し、良い結果に終わった。5月も若干ながら出荷予約があるが、予断を許さない状況である。
青果卸	異常気象のため野菜の高値が続いており、売上高は前年同月比 107.2% であった。
自動車販売	4月の新車販売台数は、登録自動車が1,995台（前年同月比 123.4%）、軽自動車が2,031台（同 117.2%）で、合計4,026台（同 120.2%）であった。登録自動車は10カ月連続して前年同月を上回った。
石油	ガソリン1ℓあたり131円で前月比3円引き上げ、軽油1ℓあたり108円で前月比1円の引き上げ、配達灯油は18ℓで1,375円となり前月比13円の引き上げとなった。
電機販売	3月31日までの駆け込み需要後、メーカーの出荷が減少して品不足になっており、販売の減速に繋がることを懸念している。
商店街	天候不順により春物衣料の動きが鈍かったが、上向いてきた業種もある。〔秋田市〕 4月はやや好転した感もあるが、販売単価の低下などで売上を押し上げるまでには至っていない。郊外のショッピングセンターにお客様をとられている状況は変わらない。〔大館市〕
旅行	取扱額は前年同月比で国内96%、海外98%であった。予約が活発になってきた。